

様式1-3

第2期中期目標期間（平成28年度～令和3年度）

公立大学法人静岡文化芸術大学

第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に
関する評価結果

令和2年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 公立大学法人静岡文化芸術大学の中期目標期間終了時に見込まれる業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」（平成19年12月5日制定）に基づき、平成28年度から令和3年度までの中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期の中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 事業年度評価の結果を踏まえつつ、中期目標の達成に向けた進捗状況及び取組予定を調査・分析し、中期目標期間に見込まれる業務実績全体について総合的な評価を行った。
- (2) 教育研究の状況については、その特性に配慮し、認証評価機関の評価を踏まえて評価を行った。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

公立大学法人静岡文化芸術大学（以下「法人」という。）の中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関しては、全体として「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と評価する。

(2) 判断理由

静岡文化芸術大学は、「実務型の人材を養成する大学」と「社会に貢献する大学」を基本理念に掲げ、豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材の養成と、“開かれた大学”として地域社会や国際社会の発展への貢献に取り組んできた。

第2期中期目標期間においては、「教育内容の充実による少子化時代への対応」、「グローバル化に対応した教育内容の改善」、「キャリア教育の推進と卒業生との連携強化」、「特色ある研究活動の推進」、「地域貢献の強化」などを目指し、計画を策定し、教育研究等の質の向上、業務運営の改善などに積極的に取り組んでいるところである。

法人の中期目標の各項目における進捗状況は以下のとおりであり、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の全ての項目について、「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と認められることから、これらの状況を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

ア 「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」について

新教育課程の設置による教育内容の充実、長期履修制度の創設等多様な学生に対する支援体制の強化、科学研究費補助金等の獲得に向けた支援体制の充実、積極的な地域課題解決への取組などが認められることから、「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と評価する。

イ 「法人の経営に関する目標」について

科学研究費補助金、受託事業等の外部資金について、獲得件数が増加している。また、公認会計士である監査担当参事の任用等、監査体制の充実などの取組が認められることから、「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と評価する。

ウ 「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」について

中期目標・中期計画の達成に向け、自己点検及び評価を重ね、評価結果を大学運営や教育研究の改善等に反映させた。また、大学の特徴である実践的な学びを特集した「SUACTION」の作成、学生と協働したSNSの運用など、広報の充実の取組が認められることから、「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と評価する。

エ 「その他業務運営に関する重要目標」について

教職員用大規模災害対応マニュアルの作成、防災に関する広域大学間連携に向けた取組など、防災体制の強化の取組が認められることから、「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と評価する。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今後、法人経営・大学運営において、新しいあり方を模索していく必要がある。第2期の残された期間、理事長・学長のリーダーシップの下、中期目標・中期計画の達成に向けて、教職員が一体となり、業務を推進されたい。

[参考]項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 非常に優れている	II 良好である	III おおむね良好である	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	I 非常に優れている	II 良好である	III おおむね良好である	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	I 非常に優れている	II 良好である	III おおむね良好である	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	I 非常に優れている	II 良好である	III おおむね良好である	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある

第3 項目別評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、中期目標として指示された「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」を達成するため、中期計画として96項目を定め業務を実施しているところであるが、当評価委員会の検証の結果、18項目が「計画を上回って実施している」、78項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

また、平成28年度に実施された独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による大学評価（認証評価^{※1}）において、特に、『実務型の人材を養成する大学』、『社会に貢献する大学』の基本理念に基づき、社会の様々な局面において、実践的に活躍できるためのスキルを身に付けることを目的とする『実践演習科目』を効果的に実施している。」や、「自主学習環境として各種工房、演習室、グループ学習室等が整備されており、授業時間外の利用が可能になっている。」といった点等について高い評価を得ており、更なる取組を進めている。

なお、評価機関から改善を要する点として指摘された事項については、改善に向けた取組が着実に進められている。

2 優れた点、特色ある点、改善を要する点等

(1) 優れた点、特色ある点

- ・ 高校教員向けの授業見学・説明会を開催し、アクティブラーニングを実践する授業の見学や学生による学修成果の発表等により、大学の特色や魅力を伝え、入試広報の充実を図っている。(No. 9、11)
- ・ 学科横断型の文明観光学コースや匠領域の設置、中日新聞社・静岡新聞社と共同連携授業に関する協定に基づく特別共同授業、静岡銀行との協定に基づく地域連携演習など特色ある教育の充実に取り組んでいる。(No. 16-2、16-3、19)
- ・ 平成30年度にLMS^{※2}（学習管理システム）を導入し、教育におけるICTの活用を進めた。更に、授業アンケートをLMSを利用して行うことにより、作業の効率化と経費の削減を実現した。(No. 20)

※1 認証評価：学校教育法に基づき、国公私全ての大学、短期大学、高等専門学校に対し、定期的に受審することが義務付けられた、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価。

※2 LMS（ラーニング・マネジメント・システム）：学生への講義資料や参考書の提示、講義への質問やコメントの集約とそのフィードバックによる双方向授業を実現するシステム。

- ・ 障害のある学生を支援するため、学部生を対象とする**長期履修制度**を創設した。また、**留学生SA制度**^{※3}の導入や**ピア・サポート・コーナー**の設置により、受入れ留学生のサポート体制を整備した。(No. 46、47、86)
- ・ **科学研究費補助金獲得**のため、外部講師による学内研修会や個別面談の実施、Web添削システムの提供、科学研究費補助金の再チャレンジ支援制度の導入など、**支援体制の充実**を図った。その結果、**科学研究費補助金新規獲得件数**が順調に増加し、**目標値を大幅に上回る見込み**である。(No. 70、71)
- ・ 教員や学生の研究分野を活かした調査研究や受託事業等の実施、地域連携演習における取組、審議会や委員会等への参加・協力を通じ、**地域の課題解決や自治体の政策形成の支援**に積極的に取り組んだ。その結果、**受託事業等の件数**について、**目標値を大幅に上回る見込み**である。(No. 76、77、78、80、81)
- ・ **大学独自の海外インターンシップ**の開拓、海外留学支援特別奨学金や静岡文化芸術大学基金による海外留学奨学金等により、国際交流活動を推進している。(No. 79、87、88、113)
- ・ 平成29年度に**アジア初のフェアトレード大学の認定**を取得し、活動を展開している。

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 文化政策研究科において、学生数が定員に満たない状態が続いている。一方、デザイン研究科においては、学生数が定員を超過している状況である。現在、大学院の将来構想について、議論されていることから、今後の取組に期待したい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施した遠隔授業の経験を基に、国内外の大学との交流、公開講座等の市民対象イベントやリカレント教育等において、**ICTを活用した新しい試みが生まれることを期待**する。
- ・ 新教育課程（文明観光学コース・匠領域）の設置により、教育内容の充実が図られている。特色のある教育研究等大学の魅力をPRし、**学生確保につなげていくことを期待**する。(No. 16-2、16-3)
- ・ 長期履修制度の創設や留学生SA制度の導入等により、障害のある学生や留学生等**多様な学生に対する支援の強化**が図られている。今後とも、教職員が一体となり、学生支援を充実されたい。(No. 47)
- ・ 研究支援体制の充実の結果、科学研究費補助金の新規獲得件数が順調に増加している。今後、**応募する教員の割合が増えるよう、取組をより一層推進**されたい。(No. 70、71)

※3 留学生SA(ステューデント・アシスタント)制度:留学生がスムーズに大学での生活を送れるよう、留学生の学習、生活等を日本人学生が支援する制度。

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 教育	46	6	40	0	0
2 学生支援	19	2	17	0	0
3 研究	11	2	9	0	0
4 地域貢献	11	7	4	0	0
5 国際交流	9	1	8	0	0
合 計	96	18 (18.7%)	78 (81.3%)	0	0

II 法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、中期目標として指示された「法人の経営に関する目標」を達成するため、中期計画として24項目を定め業務を実施しているところであるが、当評価委員会の検証の結果、24項目全てが「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

2 優れた点、特色ある点、改善を要する点等

(1) 優れた点、特色ある点

- ・ 年末調整等専門特化型業務のアウトソーシング化、時間外勤務管理におけるIT活用等により、事務処理の効率化を進めている。(No. 108)
- ・ 平成28年度に監査室を設置するとともに、公認会計士である監査担当参事を任用し、監査体制を整えた。(No. 111)
- ・ 科学研究費補助金等の採択に向けた支援体制の充実や受託事業等の積極的な受入れなど、自己収入の獲得を推進した結果、外部資金の獲得件数について、第1期中期目標期間の実績を大きく上回る見込みである。(No. 113)

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 大学が目指すビジョンに向かい、役職教員の人事において、新たな人材の登用が行われている。今後とも、第2期中期目標・中期計画の達成に向け、理事長・学長のリーダーシップの下、将来を見据えた取組を進めていくことを期待する。(No. 95)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 業務運営	18	0	18	0	0
2 財務内容改善	6	0	6	0	0
合計	24	0	24 (100.0%)	0	0

Ⅲ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、中期目標として指示された「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」を達成するため、中期計画として6項目を定め業務を実施しているところであるが、当評価委員会の検証の結果、6項目全てが「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

2 優れた点、特色ある点、改善を要する点等

(1) 優れた点、特色ある点

- 大学の特徴である実践的な学びを特集した広報誌「SUACTION」を作成し、学生募集等に活用した。また、県政記者クラブや浜松市の市政記者クラブへの積極的な情報提供、学生と協働したSNSの運用など、広報の充実に取り組んでいる。(No.121、122、123)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 自己点検・評価	1	0	1	0	0
2 情報公開・ 広報充実	5	0	5	0	0
合計	6	0	6 (100.0%)	0	0

IV その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、中期目標として指示された「その他業務運営に関する重要目標」を達成するため、中期計画として16項目を定め業務を実施しているところであるが、当評価委員会の検証の結果、15項目が「計画を十分に実施している」と認められ、この状況を総合的に勘案し、上記のとおりの評価に相当すると判断した。

2 優れた点、特色ある点、改善を要する点等

(1) 優れた点、特色ある点

- 熊本地震における大学の対応状況の調査、学内SD^{※4}研修会の開催、大規模災害対応マニュアルの作成など、防災体制の強化に取り組んでいる。また、原子力災害発生時における避難所としての施設の使用について、浜松市と覚書を締結し、地域社会と一体となった防災の取組を推進した。(No. 132)

(2) 改善を要する点

- 社会的信用を失墜させる重大なハラスメント事案が複数回発生した。学長のリーダーシップの下、様々な対策を講じているところであり、その努力は評価に値するが、引き続き全教職員が強い危機感を持ち、ハラスメントの根絶に向け、全学を挙げて取り組むことに期待する。なお、期間評価に当たっては、第2期の残された期間で、ハラスメント対策が実効性あるものとして定着しているかという観点も含め、評価を行うこととする。

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 施設・設備	3	0	3	0	0
2 安全管理・ 防災対策	9	0	9	0	0
3 人権尊重・ 社会的責任	4	0	3	1	0
合計	16	0	15 (93.8%)	1 (6.2%)	0

※4 SD(スタッフ・ディベロップメント):教員に加え事務職員や技術職員など、教職員全員を対象とした、管理運営や教育研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組。

業務実績評価集計表(第2期中期目標期間見込評価)

区分	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育 研究 等	教育	46	6	40	0
	学生支援	19	2	17	0
	研究	11	2	9	0
	地域貢献	11	7	4	0
	グローバル化	9	1	8	0
	合 計	96	18 (18.7%)	78 (81.3%)	0
法人経営	24	0	24 (100.0%)	0	0
自己点検	6	0	6 (100.0%)	0	0
その他	16	0	15 (93.8%)	1 (6.2%)	0
総 合 計	142	18 (12.7%)	123 (86.6%)	1 (0.7%)	0

業務実績評価集計表(第1期中期目標期間評価)

区分	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育 研究 等	教育	15	3	12	0
	学生支援	5	1	4	0
	研究	6	0	6	0
	地域貢献	6	0	6	0
	グローバル化	2	1	1	0
	合 計	34	5 (14.7%)	29 (85.3%)	0
法人経営	15	3 (20.0%)	12 (80.0%)	0	0
自己点検	4	1 (25.0%)	3 (75.0%)	0	0
その他	4	0	4 (100.0%)	0	0
総 合 計	57	9 (15.8%)	48 (84.2%)	0	0